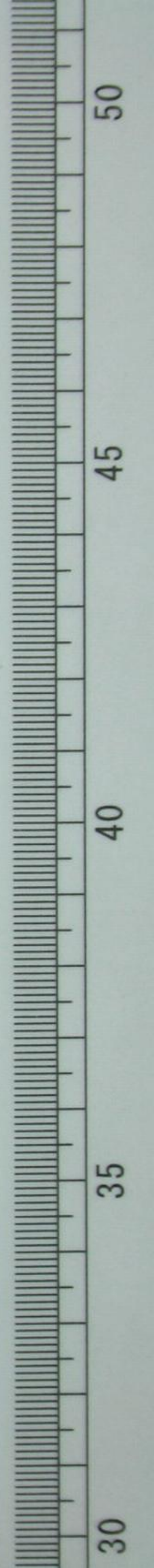


小精廬日記

昭和五年十一月
以降至昭和六年四月

特別
14
1919
610



小精廬日誌

昭和五年十一月下浣

十一月

廿二日

晴服部耕石、出立すへに家
 持の書六點交付、武田の原本と四件
 ありしものを出版部の子を編纂す
 三ヶ月前任友信托人等秘く供托し、
 金は尙方のもの満期につき引生す

坂本三郎、外科施術の爲入院三つき見
舞、代地と出すべきやう家人と囃す、
九時費の汽車に乗ると家と別す、此汽
車、並雅と名つけ特急行と京都迄
八時間と達す、此頃人氣あるはる前
日切符を求めさん、乗車し得さる也、速
力のある三四の驛の、客のくる、因る
十一時二十分、公を入り、酒飯し、正午
静居とく、一時二十分、演名洲を演、
二時、花古を過く、車中無聊、志

きりの睡氣を催す、携帶の去来集
を後、別を考ふ、四時、甲子、京都着
真、大久子、施術に技す、京都力不
業、業うも、此施術、余オの、友と
し、時、夜後、外、夜、漫歩、夜後、寒、熱
を乞、夢、あ、び、く、破、る

二十四日

時、廿六日、物、案と決し、あ、る、い、れ、ぬ、遊、舞、の、切
符を購ふ、為村一、方、中、一、身、功、大、丸、美、波

庵を訪ふて老の為め物を贈ひ、太田紅村を
訪ふて遊覧のあまのを頼み、自動車に同
乗先づ太秦の活動映畫撮影場を先
夏川新江を訪ひんと云ふ、任かをせ行き
今見後嵐山を賞す、時既、山午に
山午のを去り、めがけ、宇次お(覚)と自動
車を馳せ、黄葉山、新動車一と云し
矢、訪の後、徒歩する、葛原橋と到り
時既、二時と云く、杯を奉りて、瓜
を賞す、四時、樂故後歩、一と、風、風を

猿蓑

と訪ひ、亦、奥、聖寺を訪ひ、川に浴あり
敬業、為、為、此、此、の、景、も、殊、に、佳、也
嵐山、比、て、ん、ハ、宇、次、の、早、急、一、あ、上、
る、を、受、め、宇、次、再、三、有、り、と、も、今、次
の、如、く、あ、も、を、窮、め、り、と、い、ふ、あ、ら、ま、也
宇、次、指、時、の、茶、亭、に、豊、大、六、洞、の、あ、り
り、あ、る、釣、籠、を、見、茶、を、贈、り、て、日、電
車、よ、り、中、途、に、靴、を、こ、ん、と、し、三、茶、の、ら
約、三、十、分、を、費、す、六、時、半、の、太、田、こ、お
の、と、旅、終、く、ゆ、り、也、

二十五日

小雨、例に依り六時起床、此は京都の記念七
時と云くも、時婢、室に在りて、終書云し
八時漸々朝衣、大丸有崎而美、改衣を
浴のて先、の為、呉服、亦を繕ふ、一旦浴後、
入り、更らる、田山、いらと、遊び、多岩、飯し、五
條改、自動車、と飛し、清水寺、能楽者
して、ゆく、佛に、世傳、杉井、座、火、と、え
一、ゆ路、混能、を、和、の、礼、号、了、海、を、突、破
一、し、花、人、を、ゆ、く、ふ、ち、家、昔、を、と、推、入、の

榎原製

このたの中

反拍ニ軸かけ、杉井、倉、品、布、、板、漢
針、嵐、山、人、形、、彫、刻、物、宇、流、茶、等
本、多、く、数、道、の、給、え、く、ま、し、こ、も、か、す、、先、此、地、の
及、人、川、今、と、訪、河、、全、細、川、出、産、と、ゆ、め、と、因、也
と、逸、る、、法、義、玄、義、序、、一、文、祿、四、年、本、四、寺、法、字
版、日、本、最、古、の、流、版、本、、官、版、宋、版、覆、刻、玉、篇
高、島、本、三、冊、、明、曆、改、た、り、身、の、上、六、冊、と
精、の、價、百、四、也、此、店、に、一、休、漫、の、自、号、と、稱
了、流、流、集、と、一、説、其、一、休、の、印、あ、ん、と、も

自筆といひ判(雅き)との也。價る同と云ふは
自筆といひ判(あつ)と云ふは、辨(か)と云ふは、東京
萩原英一、千枚法と申(送)す、成(公)寸(谷)
村(一)方(り)一(来)訪(渡)ら(ん)を(半)鞋(刷)と判(り)
成(公)の(判)を(送)す、太(田)紅(村)を(も)使(り)
此(家)三(十)数(前)者(一)以(た)す(り)一(こ)と(あ)
り、(と)り(京)都(分)純(正)の(割)を(作)り
す(る)い(は)ら(う)此(家)あ(る)を(流)石(に)割(意)
大(心)也

榛原製

二十六日

時、町(地)を(感)す、(各)に(新)也(と)見
る、三(島)と(津)津(家)前(前)境(お)接(石)橋
山(前)境(境)境(伊)豆(北)部(と)云(う)、(東)海(道)
一(時)不(通)と(云)う、(修)理(者)の(い)ふ(由)
九(時)谷(村)大(印)の(石)を(訪)る、(貝)の(珠)を
の(衣)着(物)を(観)る、(各)種(芝)を(流)字(本)
を(比)較(玩)賞(師)と(具)と(感)す、十一(時)解
して(か)く(る)、(谷)村(く)菜(子)一(兩)贈(る)、(午)後
一(時)三(十)分(若)菜(一)箱(と)若(菜)一(谷)村(若)菜(と)

川合友人見送、停車場へ来た、車中紙を
見、関東地震の甚大なるを知り、讀本館を
慰し、九時十分東京着、直ぐ物中も不在、
其時柱が折れ、午後四時、初めに
入る、附加税納付畢、文の考成、ハ香白手
形一件未解決、高橋三と福野潤のハ
沙未とウを有る、高田の丹美川田と未也
関大の高島利助等と未也、中条次郎
彦大の訃利、重松他二と未也

二十七日

徳原製

時、出版部の株主協会の、臨む計、
不況あり、六分の減額を決す、退股
の部、借入は七千圓、旅費と
兼す、早大、杉山、福沢、若日本、等、生、思
志、運動史を送り来る、増内、道、道、今、相
心、京、板、崎、の、地震の撲殺を語、熱海、松
七、未、考、高、の、大、重、三、と、道、道、の、名、一、の、ま、り、破
損、崖、古、山、崩、れ、を、ま、り、古、高、の、誠、也、向、上、今、
の、件、二、の、ま、り、可、功、財、産、登、記、畢、り、た、り、こ、と
を、報、す、午、後、神、田、の、山、底、を、訪、心、村、口、を、底

五劫代百回山本書左ミテ目押入。

二十六日

晴、向、往村武田出取部、伴、ハキ、斗、切、今、向、
市原、パー、バ、カ、ツ、日、メ、一、二、行、ニ、此、物、也、出、来、
ハ、ハ、キ、ハ、チ、来、ス、山、田、は、心、事、ハ、種、也、今、今、
肥、本、坂、上、山、花、多、ク、江、射、を、施、す、村、山、秋、浦、
来、ス、ハ、古、扇、而、杉、田、云、伯、輪、外、及、所、能、代、生、
四、十、七、日、拂、過、真、此、桂、次、子、ハ、ハ、キ、印、の、念、
能、と、多、ク、ハ、山、陽、州、田、希、ニ、梅、岡、席、凡、

棟原製

マ、リ、リ、十、二、枚、を、鵜、け、ス、午、後、華、族、今、終、ハ、
利、り、文、の、場、合、ハ、例、今、を、臨、ハ、斯、波、忠、三、
ハ、三、ノ、島、士、男、ハ、一、改、米、元、丈、ハ、武、陸、軍、大、佐、
速、希、壽、儀、清、宗、ハ、死、物、ニ、就、シ、海、濱、四、
時、中、今、を、開、ク、大、田、紅、打、ハ、ハ、キ、未、也、

二十九日

晴、三、菱、島、ハ、ハ、キ、年、也、村、山、油、文、行、也、未、
浜、稻、葉、然、也、ハ、ハ、キ、古、物、ハ、壯、志、釘、ハ、ハ、キ、
田、村、壯、二、年、ハ、来、浜、文、の、也、ハ、ハ、キ、支、那、画、

秘訣同書を購入十五回掛満、真崎桂次郎
即ち高橋流古書持渡三、古枕をばす、
須貝彦方印死云とひき、吊枕と名す、大
田虹村と未也、午後先田付、あ山の墓地に
夫吹久の墓を展し、花を捧げ、秘付に出ひ、更
ら本町の瑞臨寺とさしき、幼室二十回、
製竹神、ゆき後一二の冬、舟をり所遇り、
龍舟を牽し、夜に入、新子儀、中山、大
地、よりありと報り、伊豆地方大震災の
折柄、此多あり、二女のあききと、慈記、

榎原製

あきき其の原因、降舟の浸形、撮り、
如く、地震との関係なき、

二十日

日

時、後の曇、朝来龍舟と書き、真崎桂次
郎、未也、元を付を教来、亦美、二枚
し、文行巻、同書と辨り、悔し、梅内、
退来、幼、昔、枝の物、母、三のき、内、波、舟を
移し、あき、新書、中、記、看、柳、舟、皇、法
来り、全の押、巻、をもし、あ、夜、入、り、雨

〇十二月

一日

市田中完歌向う来也、田村社二印あり、手形
一件解決と報す、此書田村の爲相
是毛、又江成令社の件につき、石田穂新の好
新少の案納につき、再訪、亀山書三書意
代十二日押出、印税三十四日領收
名古屋立位、飲二と来也、散策、河川也
店、勘定二十四日、上、下、拂、関、大、印、と来
書、宛、宛、と来也、一夜、入、春、在、書、道、今、と

棟原製

出、品、目、録、と、ま、し、う、来、也、黒、一、言、清、兼、と、来、簡
夜、未、向

二日

晴、三、菱、形、り、八、千、四、千、形、印、紙、二、三、千
四、五、金、五、千、四、割、引、畢、未、精、師、久、江
再、訪、時、と、移、す、表、目、名、古、洋、を、扱、き
は、右、病、而、枕、云、伯、能、改、装、徐、之、原、物、改
装、古、文、書、二、枚、表、打、を、托、す、丹、美、原、平
八、書、面、書、状、を、見、る、す、家、内、改、築、費、出、交

二付税務署を以て正合に就てあり、廣井一
こはれと名ならず、午後散策交りの中こ也有
の幅并ある故長崎河邊葛原屋敷の園
七辨六とゆふ、蛇糸を糸すしと夜に入ふ。

三日

町石塚三丁へ渡台見ると告あふ、来り、去
版部の幹部今こ懐ひ、珠躰閣を訪る
二三日の圖書を購ひ二十山挿入、向來旋環
を著す。

徳原製

四日

町田村在二丁目河、早大維新会今こ
開合の意に際し、七日福江合大合事由判別
う、北城の段もは年節の者押電を求
め来り、十一時散策出日本橋こつ舟着品
を購ひてゆふ、村山此へ他又三、五
枚と見たり、圖書は協合館海集本を意前
夜座話合の速記の訂正を求め来り、廣井一
と来り、平山むと、摺巻法像圓縁と云
て云ふ。

明故早米惣午の侍記編纂委令溪邦三
来江之付迄徳侯と華録せしむ、因考録
抄入りて世談深速記と校訂し、半口を消
す、所抄録抄入りの記ある石田穰未く新編
錦之字の如と需む十書百以投物と約す
午段大隈家列部と記を熊子夫人に以
著の校抄を以物と携り、余著を以人とし
大隈公録と野記必洋の抄毫也列を為す
行て元々静西備本一協と懸あし物つる言

徳原製

天をのぬボウく利の地口九萬一の惣筆抄
心録と法らぬ未也

雨、其つ時の花抄の委印を頼む村山秋浦
其の抄抄の抄の山一からさることを云す
携り帯り狩谷振る義也三身類を懸
ふ、抄録を奪す、山形の酒田より休島良
次進傳今のの字と似るを奪り休島の死云
ハ知らざるし、相原を印の名を、早大給

櫻の真おしと題する冊子を定めてあり、及
其校回等の手取り成りたるもの也。其の巻桂次
印の長簡を著し、依託を多しけり云々、就
ち云々、丹兵衛平と云々の投簡に形
返出来ぬ、淋心録を後して時を移す、

七日

日

病、右の北紙に紙上余ハ漫淡書一面を執
ち始め其難今朝到達段上紙花書、例の
注材も施す、校友辰中茂登太、良寛祖徒

徳原表

の陽の鑑定を治ふ、此の二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

八日

晴、會田平原地、三縣山林、藤美柑底
唯茂登不、交り、斗、表、其、者、道、院、の、陳
列、其、付、し、出、幅、尺、三、川、北、紙、而、を、未、也
午後早大の維持員令に臨む、大隈別邸

十日

時、村山龜嶽に去れを言ふす、其の冷度大なり
、香典入悔状を言ふす、又真修く、此を言
す、大久保精朗未悔、長谷川成也村山香浦
本林阿美村交々子功、村山く、市中に成る者
條、物、梶、田、甘、古、の、四、香、花、鳥、枝、等、を、悔、入
午後演割協物級に利り、演割神建今の午後
今をいらき、回令の一切を奉けし向上令に悔り
の決定しるす、旋ねを筆す、村山の流く、及
し山陽待極の運に起す、不立や、一、香、井、一

藤原製

可也、坊、支、四、和、男、と、未、出、夜、未、也

十一日

時、廣井一森、阿美村、可也、訪、十三、日、夜
文、の、場、合、の、存、度、其、他、二、つ、き、い、裁、定
と、花、の、春、を、今、今、を、約、す、武、田、尾、吉
の、の、流、を、二、つ、き、未、悔、表、を、言、ふ、古
流、に、二、三、の、志、林、を、托、天、堂、淨、如
洋、書、山、代、七、中、古、物、消、其、此、時、桂、次
郎、と、い、ふ、所、く、と、言、ふ、而、二、つ、き、未、悔、の、詞、

為名家三つしをいふも、故に菊一印(大善院也)
宅火夫人焼死の傍多あり

十三日

朝鮮人劉五泰余の方隔の題匣を請ふ直に書
しとて送す、田中便利を乞ふ勅政長根歌の護
完本配本、東美以乐郡の回方隔列人あり、
列り五七の回出と將ありゆき、草木利太に
海書と為す、午後村山秋浦来り画物代
二紙五十三日押海外、真の書畫監定

徳原製

世次料十四交付、五時より花の茶屋に秋夜
度井森邸と今会して文の編今存場の子
を内儀し、文の文院のまゝに及ぶ

十四日

日

明、劉五泰小山田清心渡送、是夜其来流、
十一時出遊飛白の出地とゆふのそ日本橋にお
と梅の井美あり、節とゆき、雪を焼して
実を、節を著す、新河石好書とて鞋
卯、高の節を著す、帯地を焼く未だ、

明、初未、旅、留、を、兼、す、并、樂、に、居、る、か、深、海、二
 三、ま、う、淡、法、を、持、ふ、一、か、法、を、兼、じ、に、し、り、を、還、す、
 山、口、割、の、「断碑断章」と、讀、む、村、上、席、確、可、
 リ、狭、斜、文、宗、と、就、て、余、の、税、を、徴、す、即、ち
 没、死、得、ら、ぬ、心、を、移、す、奥、田、室、花、酒、を、贈、
 未、の、出、卯、柳、子、ら、し、二、三、の、物、を、贈、ら、る、わ、何、の
 物、銀、兩、四、も、し、梨、栗、利、未、干、後、散、栗、珠、浪、
 濶、文、行、中、二、回、方、を、將、以、場、限、定、く、二、十、四
 并、内、子、二、百、四、文、法、必、同、稀、也、復、物、也、今、回

榎原製

人、あ、回、美、法、中、一、に、招、へ、ん、端、な、り、必、を、と、受、く、
 美、近、妹、の、稀、觀、用、む、を、見、う、

明、初、未、難、法、を、兼、す、武、田、尾、吉、子、梅、谷、
 所、と、追、に、買、ま、さ、る、を、定、め、せ、ら、る、先、を、信、お、
 右、例、の、如、く、梅、生、早、梅、節、を、散、栗、并、美、酒、
 領、し、七、物、書、後、此、す、石、塚、三、り、一、台、法、を、
 向、未、土、産、を、贈、う、

吳と塩川利未

十九日

頃、十時印刷令出。此に師又社裏に書具と泡し
一坪の河床をなす。入行を二二三の園方をと
膳の日本橋に飲しと仰る。修長寺の菊房
四のりしよ功権等も貯る。

二十日

陰龜山東。木林脚果樹。法文の城分秋

徳原表

り全五る白の肉三。田森昭。交付。瀬川光
行真の非利。而降。出づ。光を母を散果
りも持。飲し。うのせ。園方を貯る。
ゆくる。文行を勅定。ゆ。五。田。挿入。廿五
り。五。果。日。和。と。根。松。と。多。く。新。石。花
ゆ。と。解。米。二。斗。五。十。島。旅。命。と。味。増。粒
お。字。八。と。難。息。を。貯。る。河。井。女。夜。よ
り。未。書。塩。河。島。を。千。ア。ス。ハ。推。り。入。流。の。報。也

二十一日

日

晴、千四百五丁の山中一歩り、鶴屋之館に合
表し、創古の山公、存者の志、り、を
す、三菱の石、持支、る、を、能、由、金、法、入
文、行、本、を、治、め、を、物、定、の、百、三、十、四、十、入、
珠、環、湖、を、是、花、山、園、令、を、備、ふ、新、村、出
校、注、の、天、草、本、伊、曾、保、持、を、護、り、村、出、
い、ゆ、を、来、向、度、井、一、二、向、す、其、時、桂、治、命
五、十、時、終、め、を、来、出、不、五、寸、川、上、法、願、寺、の、
廣、瀬、の、水、を、上、不、向、午、後、散、来、法、を、親

標原製

高を美し、物々、夫、以、省、三、為、も、終、り、

晴、田村社、二、中、来、振、百、四、六、文、付、内、五、十、四
福、山、定、之、其、公、五、十、四、文、の、攝、入、り、を、
川、上、法、願、寺、の、新、村、出、の、報、を、
し、て、赴、任、し、へ、き、来、振、村、山、秋、浦、の、考、
山、湯、の、暢、匣、を、懸、す、志、を、居、り、
幅、帯、を、二、重、打、の、打、才、出、席、を、四、路、未
成、の、し、の、あ、り、方、高、流、を、其、時、桂、治、命

丹美原平一之技簡、里田村重香に奉
印せしめ給ひ、旋奉代を以つて里田の
古物宅差引酒、古山大隈家より女帯
も贈り来り、唐瀟の吹く、もと来簡と宗
家、輪廻す、午後理相友、橋本采司来梅
天宗本伊曾保物務校注を讀み、五時松平
道邊増田に赴之、甲大幹部の貝印を授
け、今更、度井一と来出、関方より、技簡、大
田虹村より、このまのの記念帳を寄せり。

二十六

時、並木元不より、来簡、新保山より梨栗
の島田市森より、難ぬ、相渡利来、山内清
必り来り、復更、今より、十一時、古山
高橋より、利り、この取火、山火、塔死の物
里大審院、長島の生お式に臨み、是を
指く、圓り丸表に、圓出を贈ひ、甚兵衛、
飯く、七つ、光を信り、再び、外出、相
と梅山、五十島旅、里より、来簡、古山、中、相
り、即ち、香、島、の、物、渡、り、と、う、さ、か、し、を、贈、り

未、竹向叔心後本嘉流馬とて、
列来夜半夢さめ、
讀正、西府津方田別在とも、

廿七日

時、相来琅玕記を讀み、
村山龜齡とて未出、
り、
頃隈、
到、

棟原製

上、
証文、
家用、

廿八日

時、
お、
夫、

部を極村を廻り来り山中想も来出志
目心之托し以り如洋幅半古扇面依山
叙公坐出来。神郡魁秋し押是を
依頼し来り。多夜ひとり多島嶼に到り
飲ふ

廿九日

雨人を働か報し。餅を揚ぐ。多須芳次等
多来出城上所為子り注射を施す。武田
尾太出政部の案件。二日未始中未

藤原製

邦の地と来出。十一時迄先を伴光館
に物を添ひりて宿に飯しとゆふ。古
池事。三来り。武智氏日記八十冊を去
却。旅行を著す。楠瀬四年。ももも来書
文行巻と抄の巻名家自著。本二種を購
ふ。物屋よりて満。今八一とウ井スキ
二大籠を廻り来り。

三十日

町。廣井一。間。比。紙。新。報。関。の。主。筆。を

四條のりたえ余の他筆搦載中止とす
 連載のりたえ余の他筆搦載中止とす
 余のりたえ余の他筆搦載中止とす
 申送す。河面仙四印とて廣治の産牡蠣を搦
 刊来、狩谷徳富の家字額表を出来、再び
 廣井一に投函、西関大印と一也と為
 す、丹兵衛原平とて来出、本河形心（書）の計
 を抄く、飯栗山本寺本店、同方七膳心物堂
 寄函、田村又六とて来出、余のりたえ余の他筆搦載中止とす
 三つとす、

徳原表

三十一日

時、有須芳次印とて来出とぬす、北條新後
 二連載のりたえ余の他筆搦載中止とす
 日進切ん徳是替促の家、此夜到るの同
 紙とて連載、銀印二顆、今四市原の鑄成す



寄心費十圓、田老す人
 龜山素三、ち磁花
 瓶代二十四、聖漢詠者

代三十の拂込、村山秋海、極角三子就
 代金三十五圓、拂込、表、尾古浮助

定五十石拂込、其為典二と梨栗三
木武をり、麦酒を打を贈り、春ふ午
後散采、市中年末の元、果と見し物へ
う、園大ら、ふ為治、まふと、未出、夜、ふり
倉井一と、雨報、別、必、此年、と
送る

徳原製

昭和五年一書録

無暉羅り、風邪新年、子、多、初め

快
十二日例のことと、越、あ、越、き、三、四、お、ん、び、ゆ
ふ

本年の目録を、宛、致、送、と、署、一、月、と、起、業
四、暉、未、出、改、し、と、余、の、春、城、漫、筆、七、日、と、う
廣、告、出、初、い
無暉羅日、動、の、の、篇、と、應、し、七、書、の、セ、と

酒と人と然りし雜誌は年 初刊にぬめり
三月の西日を定めて
四月三日に催さん
七年祭に余の海濱の
めらるる漸く西十月
春城今余の執事の友人に
年才一回を二月廿五日に
この日の春城漫筆を
帝都復興祭と見
報社社の囂に
江戸文化

徳原製

今この物西十七日に出
三月末日の印刷会社
七路率の平均に
去る所のこと
漢刻向上令起る
爰理するもの
余の今書
併合す

伊勢の西村徳太中しと杉山陽の遺著三
十八巻とのまじりあり其の越二運と詩の二、
即ち其編に及じ過ぎ、西村しと南化の名
石那留里の大研も賜ふ、雪泥の刻あり
り雲泥研と名を命ず

難然字及叔類と整理し大凡六冊を
作りこれに添ふ鶏肋雜愛別集と云
ふ在六冊の四古版謄一雙六集一ホスター
集一、外に特集一帖と心、石六冊以外也
故割念無考ノ莫集の風俗考考志

棟原製

料千枚百枚を獲、整理の上、
張り込九冊とす

江戸名所は

本年得々珍書敢て少くとも大田金高
の持非子理美全稿本十一冊此後篇年深
本記北陽談、天海四巻、雲世南法帖、
自養詩稿、樂翁歌行、平田萬胤稿本
程度札考、擬山國王釋法帖十、
歌扇面帖、其の一斑也
志きうに玩具小品骨董を漁り千點に達せ
しめんと欲し八百五十枚と書及ぶ

四月中武州金澤に赴けり大橋お方の別
在に招いん市田迄田舎みおと行てし半日お
ふ

後去りて又主修りてし中名寶長徳念を
いよく別名研究の爲め三回往來

田中強の幾帯鼓を見り

圓幸殿大令と臨む、圓幸殿場合を社団法人
人出儀とてし科書より之れに巻集して其の
方する所あり

坂上區各博士(お花)先人の墓を修めんとし

徳原製

余も養海の撰文とゆふ乃ち書しんはつあ
六月十二日旧有宗家を修りて清浦子とゆふ
十三日郷里お原の父老と迎へん宗家の
舊址誌志國の令と臨み仰時の追徳
次をうりて十四日新行に一泊十五日越作
新改の五十年記念會に臨み一場の演
説を爲し即夜ゆ集、出る後日社に職工
日中露上をあり
出版部を兼振らす六月六日の配南を
爲す

日清印刷今此も不景氣に就て六月僅
かに八分の既布を考す

史昂の三法の師稀者家六四ゆ夫其の
初を来訪こつて置酒一夕の歡を共すし
帝回返信社破産に際し余が重役たりし際
の株金未拵分二千圓に催去を受ふことし
る種々の面倒を醸し彼局一千圓を拵込
みまゐるを落着きを生けり

新潟に開きし校友会に臨み
毎年夏季無聊と遣ふも思案あり

懐原製

を目標とするが北四五年來の例多し
本年は地業早稲田と云ふを其の口と爲
意し、既三故人とらうり人の九十名の思出
を書き初めこの九月三十日簡を費し比
り

重樞健二事ある台湾も此系教日病し
物事の念に就く

八月下旬姑の過迄を執付、信の亦其の
圓府津の社に訪ふも南高家望海の洋
と令一席上押書を見ふ此の縁因あり

後日加洋の爲め作品展覧会を大隈公使館に催すこととせらる

九月中瓜邦に四推り四五日臥す

早大の維持員改選(余印音維持員人

とせし再選)

圖書館保存誌に「進献本」に就てしの一

稿を定む

嵯峨谷の波遷歴記念冊子に一稿を定む

文の書院の借金は未だ昨年五千円を

出し、ことし又五万円の出す

日本を外國に紹介する雑誌文の協会の
北七番行のつきい各文を稿し英文の藝
海せしむ

四十年前大隈元侯遷葬の日偶に隈門

今と開く席上高時の追憶談を為す

内子を伴つて終極寺に入浴菊家別荘

にあり四日間滞在し七物する

文藝春秋の稿にあり泡盛一斗を定む

す

野球の切符分配の不平が動機とせらる早

大に學生懸擧せり一時休校するの止む
べきに至り

同盟印刷四社重役十六人と提推の富士の
五湖巡遊をも企て春・京の日山中湖畔に
居し翌日四湖を見せ給ふべし物京

休大間尺一の三十三年忌に追懐後役とな
す

園者館協会の座談会に臨み今創立以
の追懐談を考す

北風致報の病に及ぶ六月三日より連続

池兼を揃くすることを約し雜誌中にも見
つ五十四を抽出して稿と授く

町内有志の懇親会を誦む

任及信託、三ヶ年信託、老翁、田端、
このき引出し、内三ヶ年三麦、
八千田の内、返金

七児と伴ふて京都に遊び宇治の藤原を
賞す、滞洛中、谷村一夫らをも訪ふて其の
殊處の園者を見る

伊豆大震

各別存在の家根を修理す

宗家に縁故者を記き、年二回懇和令を
聞く、余を以て令名を撰り、乃ち繼
志令と名く、滿志因ハ宗家舊世の名也
今名、こんにもとがく

今年下半年期出版部印刷会社共、不況
事おいて前期の扱ひ配當を為す

日ソの雜誌寛政録十二冊業し畢す

烏兔女と記和五年、七巻あり、余七十二巻
を以て八とす、本年ハ不景氣氣流厚なるを

開る、先年分漲り世相の危険を感し甚
不愉快の年なり

昭和五年除夜手紙

昭和六年一月一日誌

一月元旦

例に依り晴天なり。多し寒氣甚し。馬を蘇を的
んじ。亦一舟遊を平谷七十二里と申す。冬地
方の如く。車一堆を為す。十時を以て先と傳ふ。此
自動車と馳り。浅なるの親善を宴す。中夜
の遊道。去り。金田に入る。酒飲す。夕刻を以て雪
降り。積む。こと五寸

二日

昨、本河他滿に悔状を呈す、川畑若下
郎に謝文を呈す。廣井一二河下、餅屋
鬼角石快、九十時辰を亦教果、雪路を踏
み履堂に到り一時の切書、坂上知和を台
空菜、八、十、五、を寄、七、八、の起、向の神、信
早、く、外、す

三日

昨、夕、相、天、真、朝、の、熱、後、其、の、如、く、森、阪、下
川、澤、一、傳、の、揮、毫、依、頼、の、よ、う、と、一、掃、し、去、ん

藤原集

と画、紙、多、く、取、出、ん、が、筆、と、指、を、嫌、く、せ
に、じ、あ、亦、教、果、三、時、を、費、す、一、邊、由、吉、波、の
柄、と、埃、の、か、冊、を、購、ひ、未、り、讀、み、聴、く、岡、太
郎、と、細、書、利、の、

四日

昨、相、未、控、ぬ、と、筆、を、州、後、初、め、と、時、一、取
を、始、り、未、り、木、崎、愛、吉、と、未、出、午、後、濱、田
吉、波、の、埃、を、後、又、畢、す、教、果、又、の、筆、に
主、寄、り、関、大、ら、し、し、未、出、夜、二、時、代、先

お後玉天の二利

五日

好持子の能成を著す。今高富原未持親の
傳抄二進江又す。午後散末九葉二回方
を辨い十三高合二日量を辨あて候し。
中津松平大自の事の中津に候後出
身の遠。妻の鎌田村造の二世也。

六日

藤原

雨相未成候と著す。山内清也其後公儀
重相も二三の土音を辨り未だ十時迄外
出候仕へ候す。此の候に候至二万圓引出
す。関大寺も未簡、午後又能成と著す
才四時以候と由、雪と云ふ。

七日

晴木崎好方：簡す。糸原宇尾等深くも相尋
と番魚の相漬と著し。其の候に候と著
す。唐井一候と関大寺二候と著し。細心利

の散策船に上り、飯し神田の土産に二三
の圓方を獲りてゆくる。夜来雪あり

八日

積雪三寸と多敷り降り積く、よふ熱海に行
かんと思ひ立ち六花翁々の中を鳥島解へ行
き十時五十分の汽車に乗る。函府
津迄つて雪霏ふ、一時八分熱海に着直
こ極口融け、投す、其の間々全の融余
ちうも十年程なせり、近以融けも云

徳原

みぢまのき減りぬす、元のころ北條と治
一が井上辰丸ら一及、ゆきあり七あゝと
満家の杉平、秋壽伯本身ハ未ら知すと
らふ、何ゆ方、よまゝとて、融けしゆ、総の料
理を力持せり、先づ冬を春と報す、あー
く、友為故ぬと書きし、ささきとぬらん、七
奴年一ちと出づ、(金)中流、海も深くささき
家の所也、殊に古しく、衣靴等とささきと
つ例のこゝろ、ささきと、おの生田(七)自
動車をもゆくる、おの生田(七)自
動車

ちうも今のの如く困りたりこと平し而會交と
判り動の悪天候七珍らし、車ある者も
三層井、者位を動かす、五海の是以て大害
災ありたるも、崖山の人をむらう、找必修徳
と行も災害の原器とも多く見ず

九日

小向後所、朝一途、室を開いて横に睡り松
平伯の建、築もえら、会後於此とて筆下
生四七郎、来り二日間はかり、致味落と為

榎原製

す、十二時以外出古屋の印、店を訪ひ又
西跡末院、訪へ金子馬次を訪ひ七物、
亦於此を尋り、一詞を尋る、二時、金子
子馬次、来り長時間、所り早大、今後二の
き、内儀して、高き、別る、故、後、雨、志、も、
と、降る、車、来り、長、す、り、と、ま、口、而、日、と、
す、此、色、も、其、の、数、知、り、と、そ、り、り、後、
日、清、今、ら、也、の、二、二、と、ま、ふ、お、す、ま、き、
と、事、あ、ま、寝、後、清、指、の、大、念、こ、ま、来、来、り、
際、と、し、天、の、こ、む、る、ま、が、彼、お、り、眠、ら、ず、

をんもまがく、夢を破えたり、温あゆみの元
也

十日

好味、風乾し、朝来、旅人、とちり、ま、道、逢、来、の
小、花、の、傍、目、動、車、を、梅、の、邊、を、ゆ、の、花、院、の
六、令、開、く、園、の、分、讓、地、に、止、ぬ、多、く、別、荘
の、役、人、あ、ら、を、見、う、ち、道、逢、り、後、り、あ、り、後、
あ、あ、る、毛、棒、の、一、枝、地、の、穴、に、お、ん、た、る、ハ、場、か
へ、し、赤、白、執、事、一、つ、と、来、宮、の、奥、あ、あ、の、

徳源

渡、道、地、此、地、と、近、く、一、言、み、た、る、喜、楽、山、の、谷
の、懸、衣、重、の、花、を、ゆ、の、ま、午、の、花、を、其、の、
す、ハ、山、谷、の、ち、衣、の、常、り、の、一、枝、地、の、行、き、し
こ、と、ち、ま、ま、と、ち、り、と、此、地、に、其、令、底、の、段
を、味、の、み、ゆ、き、此、道、も、ち、此、地、多、く、別
荘、旅、館、の、け、を、と、る、う、ゆ、路、未、の、ま、
こ、ま、ま、あ、る、此、道、も、ち、一、つ、し、か、新、築、ま、き、ん、た、
境、内、に、三、浦、觀、村、の、中、の、跡、を、大、夫、の、木、を
の、書、し、了、了、此、念、碑、と、見、一、先、き、道、逢、と
あ、ん、と、二、時、旅、館、の、ゆ、く、る、衆、信、に、接、す、

午後隣室の喧嘩をこころあて室を二階に移す
此施設の未亡人と復讐時を移す、在米書
并に井上辰太郎はうきを尋ず。

十一日

日

今朝実しく浸漬暖をもち、昨夜熟睡朝未氣
ふよし、金子馬沈今も物乗えをすめぬ
又学校の要件と内議しておる、日清印
刷令此のニエースに収むべき余の年
頭言を筆録し原形を今此、新更

徳原製

す、今朝の自寒氣も市中のお道を凍結する
ふも、遠く迄の村掛は更なる午後空後市
中を散策ありて及ぶるを数階階あて仰ぐ、
市中を過つてやつと見出し七き比あ全刺刀の
長銀二千入をもち、ふあくと推の世帯のボたん
モオラシ有甚、此日大急の許の志の政官在已
を後して時を移す、晩食の後廿九年勤続
の光輝と喜を誇る

十二日

多七朝来寒く熱海より不似合の氣候也。二三枚
折紙を筆す。午後ゆめと電報あり。十時の訪
問あり。ことごとく流す。電報の報をよ。午後
おのゝ息をき。十二時半に記念をゆ。直送
し。直心の書。書紙一枚。贈る。ゆめ
後。六折紙を筆す。七時の時。可と書す。
古言。廣井一。り余の漫談。つき来。出。今。是。着
の。り。紙。山。陽。海。の。鐵。道。の。供。与。と。報。す。

十三日

榎原製

晴。此。夜。熟。睡。今。朝。早。く。眼。さ。あ。一。浴。を。試。み。漫
歩。の。朝。浴。湯。を。い。り。今。後。教。養。市。中。に。物。を
購。り。て。松。平。別。荘。邸。の。門。前。を。し。り。し。り。と。修。理
を。行。な。す。石。垣。に。傍。り。て。海。岸。に。出。て。横。碇。を
歩。し。て。ゆ。め。午。後。ゆ。め。と。決。し。東。海。電。報。電
報。を。見。る。す。旅。装。中。内。衣。久。寛。未。訪。更。に
一。ち。の。清。在。を。勸。め。る。ま。り。き。其。意。に。従。ひ。丹
比。東。東。く。電。報。を。見。し。二。時。内。衣。を。訪。り。て
緩。睡。す。次。河。南。的。九。時。の。ゆ。め。一。の
し。て。外。ま。不。在。中。一。道。送。り。す。

十四日

昨今朝の出来は早大在る生三十名
市電罷業を策不動の為め三十名は
更さんやうと報ず、亦大概此電の死を
報ず、関大中の件につき、倉井一、一色を
す、右睡の事味ち、朝倉、三友、酒を以
て、内取をゆかりは、内取も、同様し、
向ふと、梅園、おび、何故、重、罪、し、
り、欲、み、後、映、心、を、揚、し、四、時、切、有、長、五
関大ら、し、云、状、を、い、が、す、

横原表

十五日

昨八時三十分の急行列車にて、
花倉の退、甚、重、七、十、日、也、奉、公、病、止、
女中、の、保、助、室、の、一、割、を、考、す、
中、の、こ、の、も、如、切、し、十、時、三、十、分、
直、り、の、物、也、不、事、中、の、家、
と、利、業、の、位、云、中、通、一、
所得税徴、需、力、利、来、
余の、漫、談、其、後、漸、
達、す、関、大、今、三、
三、の、書、状、利、来、午

仰つゝ、小幡、後統の御紙之時を移す、河井其
俊と未出

二十三日

昨日定工を殊士山若仙大寺の御別三日定
回寺御今字慈海も輪王寺に被おをを
其の七日、龜山書もいと閑父容を春
嶽書向の合書一冊と獲、人の嘘に座
二三紙揮毫、今字慈海に御もをたす、午
後、閑に乘し、昨年各所も依頼さる、神

其七、傳流の十教の、マリリ、此の書し、畢、
為り、二時、御紙を、あ、三時、光を、
散、果、お、右、に、合、料、品、を、
願、に、願、入、心、切、り、

二十四日

昨日、山、の、御、紙、心、ま、御、今、田、心、
製、を、御、ま、右、田、善、次、郎、と、
本、三、千、八、の、信、曲、御、紙、
右、田、善、次、郎、御、紙、を、
願、に、願、入、心、切、り、

す村山秋浦と未状午後演劇博覧
に列のよ画個家所別家たは彼の後
援るとる空の色心品を陳列して心者養
に彼の援助者を招き催説せしむ道迄
熱海に在つて病ふ今日未あう今うは流る
余代つて寄附者并に此うに真りの軒施
者に挨拶せしむ、魁門木下^下舞^舞、舞旋
者も祝きおあも催す、席上余の辭を
陳お、居る井一と未去

二十五日

日

雪天、栗原金花(かろ)梅澤和軒の計
に接す、元を侍とて教果日奉接し助と物を
贈ひ甚と其、酒居るとゆふ、何れ道迄
亦状とをより、関大らとて来去又西川大次郎
の者就に接す、又村一とて奉送とて夜宗亦
のり年、あふと助也

二十六日

曇天、在方崎肥田中畏三郎の計、和

徳利と文の海合とのニエーがに収あへき余の
橋の漫談を筆記せしめのニ時分と号す
高田早大法書世電話を交り、村山秋満
の考山陽書帳の運函に起るる、神郡教
三とと未也、内子と月末支拂を三回交付
午後傳んじ散葉紙生と物と繕ふとゆく
二、花田唯右信、栗原甘子に梅状并に
香を送す。

二十七日

藤原製

時凡、朝来漫筆三篇を筆と七北城
河報く、今す、林内喜大とと又うら
筆を字のせり、山田清心とと又
未也との配本を多くと、林陽美相又
未也、早稲田中學校も定款改正に付書
類州来、入洋達、其為外とと又
未也とと又、午後散葉紙生と物と
研ふとゆく、北城河報と投す、其
此り、夜に入、村山電、其母の訃報と

二十八日

町、池邊往原稿二通比紙片積く郵送、安田
善治中、園方を送るに以て海を渡る
す、午後十時頃の稿を心り又比紙片積く
寄す、徳久より教書、日本橋、小島骨董
を購ふゆへ、表裏局、控、等、既、是、若、里
長、河、川、路、至、漢、城、草、二、卷、出、未、は
内、道、邊、より来、河、一、波、を、も、旋、巻、玉、扇
と、寄、す、事、の、履、後、後、の、

榎原製

二十九日

町、校友、木、船、合、能、来、話、時、も、今、未、の、
作、品、抄、十五、回、交、付、去、冬、川、紙、也、且、の、計
別、入、村、山、鬼、一、り、由、死、去、に、付、吊、状、を
寄、す、雜、紙、を、筆、し、時、を、移、す、事、に、信、念
散、策、紙、に、物、を、贈、り、物、の、五、十、分、力、を
り、来、出、

三十日

町、鮮、人、劉、成、泰、来、り、余、の、云、幅、の、題、運、を、持、来、

乃ち去りて其ふ今泉雄心の計別る、二廿五の
二千山の約手約限ニ付更ニ刻引六十日百と
りたる間太郎に投簡連載の漫海に
就七云り申込込三十一時迄に地客を感ず
五十吟旅也と餅を天り来り才一報り、預金
の内三千圓一ヶ年定切預金ニ振付外ニ
六百圓引出す、数集三時切書、間大の
未也

三十一日

榎原製

此時より行未必血昂奮云々一々家族皆困し
あ、坂上山島も、縁坊屋財を施す、竜山
来三ニ、去南梅代を拂満、午後今より
雄心定を成る先お武に詣む、士今改
ニ一時は、この文の場合の時向研究今を
ひらく、一五年外回におんじ前、物朝、以早
大理科お校今和功、中一、本考現学ニ就
七二時河也、く、薄漬、一七今を測つ、所得
税四百五十二圓約付

〇 二月

一日

日

雨、北原の散の漫活の寄す、き稿を必す、午
後出遊、先を伴之、新右の武蔵野館の
映画を見る、金上考現景を辨る、由一、
関大介と未也

二日

晴、漫活の稿を筆し、再行十二枚紙紙の
報社、定らす、考現景を後、関大介

榎原製

未也、本間久雄、山田清、此必創其の種
し、初生、飲ち、北原の稿に連載の余の
随筆五十回、連す、早稲の二平、云、校
未也

三日

晴、高次者、次、未也、漫活一、海を北原
新稿北、寄す、平、漫活、即、ら、し、其也
午後散策、日、稿、即、と、辨、る、也、切
一、五、内、忠、一、部、と、未也、又、刻、書、漫、活、原

稿七八枚筆し畢る。

四日

曇天。平泥、飯沼、印、河、井、田、後、之、技、向、坂、本、
三、中、一、夜、英、見、高、量、三、十、回、早、大、四、人、と、也、
之、出、支、入、洋、達、主、と、鈴、木、何、の、日、病、
兒、の、主、流、匠、の、紙、本、を、依、頼、し、福、田、之、中、
死、証、状、を、得、し、也、。回、村、社、二、中、來、接、し、
日本、八、史、回、港、十、七、十、八、輯、出、收、え、ん、と、
完、法、干、後、漫、淡、の、稿、を、筆、末、八、回、達、

藤原製

昔、二、部、を、と、り、て、河、井、田、後、之、技、向、坂、
今、夜、一、部、分、豆、を、ま、く、元、未、也、

五

雨、長、雨、の、間、を、り、二、回、又、漫、淡、三、篇、の、稿、を、上、
部、山、田、河、井、田、後、之、技、向、坂、本、三、中、一、夜、
器、を、托、す、新、酒、の、有、在、庫、中、一、回、又、其、世、
界、一、回、送、り、を、受、け、七、時、集、る、午、時、酒、を、飲、み、
列、と、牌、取、を、來、來、也、

六日

雪、朝来漫淡の霧を心り、北風は暫く
す、武田屋去出、故郷の件につき、未だ、而
は、奉甲申に、お玉を、奉、午後、故郷、丸印
に、物と、贈ふ、と、仰、さ、

七日

晴、桑原院の、豫、息、今、豫、連、日、伝、揚、時、り、遊、
流血の、憐、事、を、演、す、し、ふ、さ、朝、来、漫、淡、の
霧、を、心、り、攻、口、献、言、十、七、日、の、春、樹、人、を、こ、つ

榎原製

き、未、淡、村、山、物、し、此、丹、派、文、の、協、今、の、榎、木、静、其、
鐘、と、別、の、十、一、時、故、郷、来、お、言、さ、し、文、行、書、の、回、り
三、時、御、宅、方、信、芳、次、申、さ、し、未、也、且、近、若、也
定、の、七、未、の、閑、た、り、し、と、未、也、

八日

日

晴、平、津、金、三、ら、山、陽、の、書、書、の、館、定、を、持、
出、遊、て、石、塔、三、ら、北、津、登、を、付、ひ、未、の、様、
大、蔵、也、と、云、り、す、百、人、を、寄、家、に、招、ひ、未、
成、也、(未、淡、中、の、未、淡、太、田、雪、松、の、お、物、

ニ折る、故本朝真来梅、午後散、兼物也
後、温法の箱を腐す、寒のよるも寒を兼糧
烈

九日

今朝来、人の囁き、早し、小切五六枚、押毫
北、飯以、朝し、温法、の箱を定す、鉦子
今、津、真、九、三、午、と、近、の、法、物、を、持、持、り
未、二、十、時、口、法、御、御、今、此、の、重、役、令、以
臨、有、今、津、八、海、有、と、未、た、す、良、為、動、不、在
十、時、法、三、時、散、兼、物、産、日、本、指、七、以、二

藤原表

廿二

十日

夜、未、降、雪、今、朝、五、二、積、す、而、雷、九、来、北、州、以
朝、に、投、す、心、き、漫、法、一、命、を、草、す、十、時、出、散
部、の、幹、部、令、と、修、知、午、後、物、も、後、立、漫、法
一、命、を、草、す、午、後、七、雪、令、と、雷、八、来、天、地
晴、々、以、う、関、大、中、二、間、す、

十一日

纪元節

間、漫法二篇著し畢す、石印え花も来
也、午後風氣もつえ、臥す、服部嘉香も来
也、紅雲蓋陽もも来信

十五日

日

所、あり風部の勢味もんと今朝起きる漫
法二篇と著す、服部嘉香もも来を
壽も、和歌の短冊二枚寄りてあり、歌
流所ある弥壽司も、山陽の去書道の體を
を求めあり、~~書~~書も、木工井内も、

榛原製

一講本の書外物も心を托す、未漫法の
稿も心より午後臥す、尋中和四女眉尺
を讀む、閑太中もも来簡

十六日

所、武田石印出政部の子、甘来法、改上
り注射を受く、漫法二篇著し畢す、
金も、二十日川出す、田代亮もも来也
午後亦臥す、銀生の子、洋菓子十五
個注文、明日春城合とあり、配比ん為也

関大らりと一身上の進退に關し長岡を寄
せ来り、蔵中銀座細見を讀む。夜と入
り

十七日

時分津八一と未出、東洋美術一冊を寄あて再
る。没法一冊を筆し畢り、関大らに出京
未出、交付の読書三十冊の内十七冊は
未出、北城を載し、函儀五十冊送り来り
午時、関大の身上河越のつき活し十一時去
る午後赤坂外夕刻に刻り、起きを始し松

榛原製

本橋の春城令と時おま余の夜辰より
合二十段名に及ぶ、中々城正以上は花紫あ
新九ら、松井新次をいふ未合、余の弟の
心り、おま壽徳を令し、おま今謝辭を
陳ぶ、女光し、出席者、菓子を傾つ、田
代亮入し、壽持を令あてし、

十八日

時、今津八一、田代亮、以、河原、壽辰井一、
長岡と、関大の身上、一、つき、三、す、振川
集二冊、未、関大ら、め、幼、別、を、先、け、と、あ、

下谷の鈴木時針在、修徳依頼の懐中時
計成る、銀一本燐の、文行巻と初めを福地
梅老の、その物も十数冊を撰ぶ、傍五十四
也、外に、方印様の、長筒一巻を得て、何
れもと兼し、在り入る。

廿一日。

此方名流を、もて来也、卿人の考ふる、押書
小の、東洋の、書簡、少くも、古抄に、托す、
丹美宗太古の、初書、も、来也、光と、付、り

故、来、館、生、に、録、し、て、物、さ、る、京、又、丁、の、由、来、の
物、と、野、も、亦、栗、原、全、我、達、族、も、物、を、贈
り、来、り、生、田、七、ら、も、来、也。

二十二日

日

雪、垣、原、正、五、尾、高、の、報、あり、前、来、漫、法、三、巻
も、兼、り、す、午、後、石、塚、も、り、り、る、関、大、ら、り、と
り、来、書、文、行、巻、も、も、来、副、の、生、命、保、険、の
配、申、飲、ぬ、相、目、降、雪、に、ま、す、午、後、近、に、
積、り、の、捕、炉、漫、法、も、好、く、夕、刻、に、到、る。

二十三日

今朝積雪二寸、以書の市販法を承り市
白雲の玉と刻し、柱のくし、六四の久武
の目録本を贈り、此の夜、星風傳の
新書を為す亦、程ある星の運に、
壬寅年を其のくし、の代を承り、
未也、村山に如く、如く、如く、
の幅に、題運す、武田信玄、耳功、漫談、
を承す。

棟原製

二十四日

昨日、北海の高原、粟八未、
秋名刺を、此の、未、
作、少も未、
直の、病、
漫談、
筆記、
道、
早大、
譲と、

より来る都令也的日午前十時五十分の汽車を
て四府津へ赴く方を約す、平船田中各々
改正社園法人定額券を四附し来る

二十五日

時久東邦武九十三處七九去の報あり廿七の告別式
漫話一篇を筆す、十時五十分の汽車を
高田平降の付四府津の四人別荘に赴き、
熱海へこの頃内遊遊の可あるを待合也
等扱の通す、一、二時方、二海へ行くと

榎原製

笑く、退散のその夜際動み夜をを告げん
とも森崎の莫迦(暈)動教月持續しんじま
かえんがま山大隈、終らみそまらんす其
以而創りて、扱及りあるよのち山を夜を
森崎を説けとも未だ覚醒と列す、夏
任道中、碇廻すく、地くさること多し
高田の石子畑に敷先の後、今後を言す
この提案未と示さんぬも、事却る重大に
属し余の(家)の口素と為す能はず者の
一二言ふ所あり、高田の余の道と

とれらるゝ尚紙一巻とあるは、
ハ碎後奥巻ありてをばむ人と困らせ
り、免る後辭し、
き梶口苑後と投す、

二十六〇

咳吐表奥巻一と紙一巻を得す今朝氣分
一と浴して漸々快相来無事、
を稿して二十五頁終る面四口合を世
後散果二三七巻のよと繕めてゆく未業

藤原製

硯に親しむ、
お墨をぬりかくる、
余の蔵の梅上と移し、
利とをぬり、
のアイウエオを繕めて後、
をゆかり、

二十七〇

時、朝来稿と親しの漫活の
り、十時以内を繕めて

録々)印し来り。北城の役連載の余の
漫話七十五回(支連)す。百七十四巻の
系相改に油心あり。今後執筆を要
するに百七十四巻と二百回(支)とす。十一時
先を付の上の車東府美術館に併置
の故下山観山遺心屋賃入ると観心
二回(支)の一二物を路のてり。又利
漫話三日分書き畢する。

二日

時、同大らに問ふ。北城の役連載の漫話を
二通投郵。高き要八巻の。高き日本
教育法の欠陥を法す。合田氏の注文の銀
尊金具外に垣輪形の辭持矢、影本
刊行分も。教長の古今和歌集二冊利未
段上弘尚より注射を多く山田尚心
未の。先月分複多本配本。小久江等一
既午後村山亀野代人未の潤係
一切手に入る。金二る田引出す。理
札友等分漸やく快。半尾の漫話大

リ来也

三日

晴、漫談奉行二通、北城の報、抄、投、山形の江口
親、ゆゑと土産二程を郵送し、来り、有賀長橋
来り、先を付、少の教、果、丸、善、ハ、ド、ハ、
ツ、ツ、を、嬌、の、向、者、大、を、甚、は、重、極、く、郵、送、
関、大、ら、し、し、と、来、り、河、里、一、軍、法、果、く、し、生、田、萬
の、事、蹟、を、連、載、の、柏、崎、新、報、十、数、紙、を、定、り、也
来、り、

徳原製

四日

雪天、朝来、漫法、二、通、を、草、す、五、十、分、力、江、口
親、ゆゑ、の、書、状、を、お、す、柿、瀬、日、年、来、り、打、山
り、勢、の、刻、料、四、十、日、交、付、日、本、古、印、語、九
冊、也、江、口、親、ゆゑ、の、関、大、ら、し、し、と、来、り、余、行、二、通、
北、城、の、報、郵、送、し、雪、こ、も、く、く、雨、こ、も、く、く、作、る、
可、也、

五日

晴、代、朝来、漫法、の、稿、を、心、す、十、時、出、版、部、に、到

りすを要す、お出中五の忠一(中)事(名)丹共
宗實(名)と来書、先を付(名)を教(名)来(名)在(名)
高田(名)立(名)坊(名)仲(名)五(名)十(名)日(名)内(名)子(名)二(名)交(名)は

六日

地久部

吃(名)坂(名)上(名)山(名)尾(名)身(名)の(名)注(名)釈(名)を(名)施(名)す、出(名)政(名)部(名)に(名)列(名)り
五(名)十(名)五(名)力(名)と(名)今(名)え(名)し(名)七(名)教(名)科(名)考(名)の(名)用(名)の(名)迄(名)の
三(名)つ(名)七(名)城(名)邊(名)の(名)所(名)を(名)り、(名)以(名)傍(名)重(名)極(名)し(名)て(名)固(名)を(名)
寄(名)せ(名)ら(名)る、神(名)田(名)の(名)二(名)三(名)書(名)店(名)を(名)ゆ(名)の(名)を(名)固(名)を(名)
焼(名)山(名)洞(名)大(名)ら(名)り(名)と(名)来(名)出、中(名)山(名)廣(名)足(名)の(名)樺(名)島

榎原製

風浪記七族あり、北松(名)所(名)載(名)連(名)載(名)の(名)余(名)の(名)漫(名)漫
八十回(名)に(名)達(名)す、

七日

雨(名)予(名)前(名)一(名)時(名)に(名)二(名)回(名)地(名)震(名)あり、(名)強(名)風(名)を(名)集(名)す、
十四(名)日(名)高(名)山(名)房(名)坂(名)本(名)社(名)共(名)に(名)祝(名)す、(名)五(名)京(名)合(名)宿(名)木(名)林
陽(名)美(名)村(名)耳(名)流(名)鞍(名)母(名)木(名)柱(名)古(名)母(名)死(名)云(名)に
つ(名)き(名)吊(名)枕(名)を(名)せ(名)ら(名)る、(名)富(名)高(名)治(名)古(名)方(名)高(名)安
八(名)月(名)号(名)と(名)来(名)出、(名)教(名)来(名)文(名)行(名)書(名)に(名)一(名)紙(名)和(名)名(名)紙
録(名)五(名)冊(名)を(名)贈(名)り(名)ゆ(名)り、(名)内(名)親(名)王(名)御(名)降(名)誕

白

日

晴、風、朝来一丝、心多の、後、深と、浅、可、種、持、宗、八
来り、道、道、翁、歌、畫、の、題、正、と、清、ふ、故、来、宗、八
生、に、改、由、下、公、に、回、り、文、の、書、に、回、出、を、題、に
七、悔、く、の、後、深、を、筆、し、と、時、を、物、す、重、松、他、二
ら、来、前、

九日

晴、内、道、道、の、歌、画、の、画、に、題、し、且、の、後、評、を
録、す、今、田、市、原、に、先、名、心、代、十、五、日、交、付、免、山

徳原表

兼、三、み、の、後、村、為、六、聯、梅、と、梅、の、十、時
り、在、印、刷、の、市、後、今、と、臨、あ、一、時、地、空、あ
り、熱、海、の、河、の、色、道、に、河、す、今、田、市、原
ら、金、師、系、譜、を、始、く、今、日、如、女、を、春、め、七、閑
に、兼、し、庭、を、掃、あ、夕、刻、笛、帯、久、幼、来、り、
先、と、其、に、記、せ、作、家、亭、に、利、り、酒、飯、す、

十日

晴、木、林、脇、美、村、来、法、早、福、田、大、三、と、来、前
十、時、出、遊、細、川、書、店、を、訪、り、二、三、の、回、す

を賜ひ主人と柱とを給仕の酒代に酒合も
ゆへに酒代繩の屋のハ鋪りんも割直
長此直也 関下今も来也

十一日

時、後山一層もあし北城村報に定り森
野村、野村渡村の割直をあんまの
子を付食午時ゆき飽食す、ゆき給
とゆきす、ゆきと柱本居二人あし、
家と流を七時家もせんとし、柱本を也、

榎原製

福寺の石中合此とて今探取列り、何由
道送二回す、

十二日

明日、雷山素三とあし書言代十三日押
ほ内道送とて来也、武田屋も来り、
明眼寺坊の石中合と流す一時、
流流すとも来也、早大寺も流す、
美の針列り、柱本居二人あし、
料を施す、

町、浸淫ニ命を帯び、此種新報此の書
す、高須若方が「もしも」の著者、日本、世界
を征服せん」と言ふべきある。植木念三人等
リ施肥、区内賦税人租税令、十四日寄付す。
午後早大の維持費人等、臨む、今日暇不
六年分の積年を議す、不景氣の後の及
び収入減十萬圓以上、危険思想防止の
為め、必要とする人件費其他の経費、於て文
去大の増加、一般経費も、縮減僅か

植木

此十萬圓を投する、困難也、況大なり、
寺泊の十、納の及ぶ、と云ふ、未だ、此等春
城浸淫百圓、連する、二付更々、百圓
を連載するの、序と草す、所得税徴
票列の上、中、未だ、未だ

町、城内を造る、未だ、浸淫の、就画を定む、
関大、一と、共、浸淫、二、命を帯び、
す、以上、此、危、注射と、施す、早稲田中子

与社団法人改訂案を送し来る。もと牡丹の女
将来功半花を譽ふす、午後亦漫淡を筆
を草す。送送の款書を表し届
托す。施福未終とす。もと植木禰二人す。又
刺東京公館に到り富山方の英和大辞典
完成の披露会に臨み早上演説を爲
す時由宅

十五日

牡丹黒原平と未出、相来漫淡を筆

黒原製

十数枚成る。十一時傳へて先を筆を散
集紙に録し七時了。亦漫淡を筆し
富山方の英和大辞典の英和大辞典
完成の披露会に臨み早上演説を爲
す時由宅。未出漫淡を筆し
く、今も出席せん。未出漫淡十年忌辰
此の身代を紀念す。趣向を思ふつし
と。漫淡し定行委員荒干を指しす。

十六日

昨朝未漫法を筆心す、倒大ら出集其後
午後時時、乘し敷果上座、淋心途中報
其小品二点を賭あし物くる今夜区内の城作
出身者の懇話会、師出のありし、古名席
十

十七日

昨、武田尾末、年輪、能取を筆す、倒大ら
二日後、名稿一束を交付、十一時筆談、今後
むり十枚の書談院、飛文の未集と評す、

徳原製

文の協分、四家補助建議と書談、提出
する件、このき、内議す、松本、増田、義之
二、間す、坂本三、八、改中の家、為、氣不
況と決し、旨由を少く、下谷、足門、所、公、店、
供書と撰ふ、夜未、而、あり、建部、懸、手、還、曆
祝、か、つ、き、廿、九、日、未、也、

十八日

雨、風、朝、未、能、取、を、筆、す、倒、大、ら、出、集、其、後、
幸、し、未、間、二十、号、新、巻、斬、と、振、え、ん、ん、
断、つ、午後、上、座、の、美、術、館、陳、列、の、寫、真、繪、を

兄の出来又陸奥を兼す。三木善八死去。三木
比岸入。

十九日

晴早大とて汗流るるの道條到り。又日を回し
飯塚より大谷の道條到り。才一里の支店を預
金五兩引出す。二三の支店を預金文の如く
五兩引す。本の文の場は例合あり。漢つて
日を元来いひ不席す。外出中松井郡流
後更社来訪。井上辰大より三木善八

二十日

雨便利中とて複製本古田松蔭野山杖渡
書記を配本。分付いをも日法記寺塔渡
家等録文をも預り来又三木善八死去
につき悔状もあす。大石理内。三木善八
家を托り。表を危し。二三の書等を托り。
の家を納め。書等を托り。二三の家
のよをも出。一家の氣譜を考す。三木
台湾主権を授新。内子を授けし。
お宿におを預り。三木善八。三木善八

継志園續記を著、深草家、野ん
為也、重福徳二日家の系譜の旨を新
先方の為、成す也、関大のし、未也、松井
郡流、関大、痕後、大草の、**轉**、草を、後
也

廿一日

春平皇、金葉

時、相未也、依新、終、定、の、し、き、没、決、三、篇
を、考、一、投、郵、島、村、氏、花、の、あ、ま、娘、良、人
の、研、究、考、二、つ、き、云、り、す、**鑑**、地、合、山、上、八、片

棟原製

馬、幼、不、過、一、十、一、時、光、を、伴、之、教、果、初、時、の
渡、心、酒、飲、一、二、物、を、膳、を、ゆ、く、関、大、中
し、未、の、間、

廿二日

日

所、関、大、中、一、の、間、夫、是、采、科、の、生、**簿**、**録**、
助、牧、の、義、經、の、名、を、し、未、の、作、為、印、一、の、
状、を、附、す、**昂**、字、**一**、**割**、**家**、**改**、**采**、**二**、**行**、**と**、**山**、**宣**、
を、崩、す、**新**、**乃**、**の**、**山**、**三**、**八**、**武**、**久**、**と**、**れ**、**二**、**身**、**揚**、
武、久、は、終、つ、き、**新**、**乃**、**を**、**伴**、**ひ**、**未**、**の**、**祝**、**物**、**を**、**終**

らる。散末上をとり中央スティーションを
せり取りて物くら。漫淡の相をせり取り
て依頼の一二のよの出来、おどろき或画源心
の回復心の床に揚ぐ。

廿三日

所化、相末漫淡の相をせり取り未成のもの
成る。即ち北城新報、郵夫、武田尾ま
未淡、相末漫淡の相をせり取り未成のもの
贈る午後又漫淡と著し、徳んじ、後止む。

早大も速達郵便、うも廿五日東京へ
まるべき、よ申末の、森依、或七の案件、
也夜来表を列す。

二十四日

雨高の風をやり、木枯脇前田あり、未
来年、并書、この書より大隈、候紀念、公のつ
き、此叙のつを、揚揚、漫淡、一、相をせり
し、終る、午後又漫淡を著し、未定からず、
たら、し、未定、公のつ、一、のつ、法、た、

塔婆露骨銘文表を接ぐのめを移す、

二十五日

昨朝来漫法二篇ありし。頃田増文の川
崎真流前修男紀念校建設の件。竹村未接。十
一時東京急行電鉄。利ノ云板の紛議。二つも内蔵
す大隈森林部の開。翰旋し。鈴木寅彦
らして。時官。二。満る。経過。報告あり。森林
部の要求を答へ。二。学校を潰滅。二。導
く所以と一回横概し。飽む。裁かへしと

陸奥

来し。高は。ち。山。大隈。二。決意。と。二。意。勸。生。す
る。又。あり。と。一。十二。名の。委員。と。奉。け
二。時。漸。く。公。事。二。入。り。念。後。互。ち。二。委員。
を。し。く。く。坂。上。弘。花。す。ま。り。注。射。を。施。す。
開。校。の。工。事。と。不。達。前。と。さ。う。の。外。出。中。
竹村良久未接

二十五日

昨。今。課。ハ。一。二。間。を。定。め。り。北。城。に。移。す。を。行
き。送。る。北。城。に。移。す。二。掲載。の。余。の。漫。談。百

回ニ達チ、樽酒し助龜山書ニ來梅、此の
て改定より節満り、二日間定公より、楠瀬日年
ニ投函、改口獻吉來流、元をばせし報座し
散采、清化ニ望念し、七切り、北城新報
上余の漫海續載の社告を掲ぐ、亦漫話
を稿す定統ニ列系、北城新報も去年
の春の報を返却し來り、近來兩あり

二十七日

丙、拂曉地震あり、朝未漫話一篇七首あり

散葉より巻珠、詠子、就七回を將也、
廣井一出、京使を以つて味、晴法を野々来
るゆり、今をえと約す、旅報を筆す、宛る
丹兵衛、原平次、男茂を伴ひ、早大寺が号院、入
りて試験の件ニつき、未だ、

二十八日

頃、今宵ハ一と来也、本林、勝武田、小林、望三
来、梅、阪田、増子、一と来、法、廣井、一と来
梅、千代、梅を共つて、北城新報此の由

多を流す、三葉の所のくまの千期此のつと
未簡、午後大なる難波舟と今午前の
車に乗後集人以後の好名と又きりも指
船を教果は海舟の舟也

二十九日

日

時、重田季次(豊前才校名)小入江成二
の船より未梅山田南十舟の舟を冊
吳原平未訪物と遊り、平洋金三
若原芳崖山陽の幅を獲く未、山陽詩

棟原製

幅の幅に懸運す、亦流に五し四五の六切
二物是す、午後後後舟に乗下先を付せ
散果新の舟の吾果後を流り、隅田川
の舟に在り庭園を歩し、言河橋を流
る、橋のあり側あり人を以つる填塞
平ふして海に淡香、観音を奉る、所を
二物と懸せしゆり、関たりし未簡

三十日

時、四夜一時夢醒の枕頭の船舟十数

冊を拾ひ、浸漬し、収め、木料紙を拾ひ、十
数冊を得たり。今相難波に在り、是を電
報に志山大塚の消息を報じ、昨日午後
東京今館に在り、唯お負有、志今令館
蔵の書を、一未、田村社二、完結の
歴史用語を、帳に入らし、持来の、文の協
も、款の金の、致、致、ろ、中、田、海、海、浸、漬
好、則、著、し、し、し、し、三、菱、紙、の、約、年、期、限、に
つ、ま、に、更、に、し、し、切、替、り、満、ち、須、芳、紙、の、し、し、未、書、
散、果、然、に、し、し、し、し、し、し、高、四、男、早、若

徳原製

三十一日

らし、未、也、の、電、報、後、未、浸、漬、を、行、し、
昨、朝、未、浸、漬、の、福、を、筆、し、好、の、書、溜、の、
る、好、を、紙、紙、紙、紙、と、定、め、す、前、山、紙、紙、紙、紙、
高、原、未、浸、漬、十、時、高、山、を、動、政、書、に、記、し、
早、大、の、時、向、に、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
物、へ、し、不、在、中、内、の、久、安、ん、未、過、午、後、未、浸、
漬、を、筆、し、二、時、在、京、今、館、に、唯、お、負、有、
志、今、令、館、に、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、
志、今、令、館、に、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、

を解法を報告あり余の解を述ぶ今日出
席二十五日甲種積と打撃くして山形市の
間由福又刻ぬる、改本三印も退院を
報じ果る

の四月

一日

雨、木村陽、山の清心柿瀬日身未記柿瀬
印一顆貯り入漫活り行と他る。関太

徳原表

印二一と為す、丹美奈平より油四合守
り海を空りて来る、

二日

晴相来漫活を兼す、原村三日分北佐野
報く投部所得税を兼す、以て免所金五百
圓引出す、西川一草亭了若花心花語を
寄せしむる、又漫活二層も兼す、大甲
より来出午後散果文行をとりて同誌
五十回刊、此は、四つを兼す、毎ふと修く

其の典ニ事ありて

三日

大祭

朝来漫法を著す、生由七中、関太印、
未極十時過、好法に業して散策、
此に飲ふ、ゆい亦漫法と著す。

四日

朝来漫法を著す、正午、表書き、
納付、所得税四百三十四圓、
納付、果、坂四増

榛原表

五中、文の事、まゝ、まゝ、
於て出政部、歌、
子を代人、まゝ、
新島、
淡の材料を、
の考、

五日

六日

朝来漫法を著す、
受く、

上野の比岸橋を見つゝ、三時半頃書雨益々
——雷鳴の、後雨。

六日

晴、夙、関大、中、又、泊、の、き、浪、浪、の、福、十、四、年
を、交付、す、島、山、兼、三、書、畫、物、を、濱、々、未
も、五、浪、浪、二、三、年、七、年、す、二、時、工、業、院、出、部、に
大、隈、七、侯、紀、念、施、設、の、委、員、会、を、以、て、ま、い、余、今
を、宰、し、幣、重、の、数、件、を、協、定、し、四、時、迄、数、人、を
下

榎原製

七日

晴、夙、中、の、夜、四、時、未、迄、計、七、武、田、存、吉、氏
の、一、束、の、書、物、を、北、城、新、橋、に、投、り、十、時、迄、
先、を、付、け、お、せ、之、の、公、園、散、策、橋、大、湯、開、冊、共
原、平、安、の、文、祿、と、未、出、書、物、兼、尾、末、の
故、録、を、著、す。

八日

晴、朝、未、林、脇、武、田、廣、井、安、藤、勅、高、谷、存
史、未、橋、内、島、之、史、を、以、物、を、贈、る。

午後散策、文行堂を訪ふ。蘭字匠科名
詞、カシノ一を得、東台の梅老と見ゆ。
ありあ文社と金沢文庫、舊菊字匠を
訪ふ。来りて、堂印の冊紙を托さる。素田宗子次
ら来也。難波福一入号、海二つき、高反次来り
未電

九日

時、ありあ文社の社徳永重原、難波福一入
二云の詞を授ふ。田村春成、難波福一入二の件

榎原製

ニハキ、目録、後進、或次、若林師、五幼二つき
大隈石、辰崎二つき、堀誠、十時と、中印、別
今我の重役、今二臨り、市山、房二つき、近刊
の大英和辞典と、寄せ来り、関大、二つき、未
書、指針と、著す、而、高次、二つき、電を、寄
ふ、丹、美、原、平、二つき、出、就、を、寄、す、二十、六、の、前、島、が
男、音、の、十、三、年、忌、に、招、り、る、

十日

朝来、山岳を、整理す、亀山、車、三、つき、曉、高、屋、

育環樂園横巻一橋を解ふ田中町山由巻所
也、高島法吉と云ふ、十時出政所の役多
今と師お、至沙田出政所も借入、午
後光を伴ふを放棄、おと猫を遣ふ、徳
所重原も、春出利ふ、内宿人等を轉送、

十一日

成後向内子か一泊の旅行を欲す、任かせ親接
言く甲州迄、一泊つくと午、今朝九時新
宿野と云ふ、州の家接花満開も車云

徳原製

より見ゆ程の事、初宿も大目と判る間ハ去
年五洲廻りの物送、往等、高きお、記す
へき、お、此方の橋橋、下車し、内子と
橋下の野産と流んと同賣、偶に、お判る、念
皇白動車と働、お大目、判り、一車、お、
午、お、更、お、白動車、お、働、お、河口湖、
判る、念、お、お、村、お、お、お、此、お、甲、お、
集、お、お、お、特、お、車、お、お、お、一、お、
甲、お、お、二、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

の趣味ありありと遊んで利用して汽車を後く
る家多し、絹の産を採る為めと知る。午後
二時向い湖時へ達す、而も其濃々と一咫
尺の前へ在る富山概の包まんて雄姿を現は
さず、貴紙あり、一茶店に坐す、湖景
を看して、更なる自動車と働か山中湖
に到り湖時のホテんに一泊せんと擬す、茶
店の主人ハ先く、ホテんに未だ開けあるかと
いふ、杉を惣定、海鏡を生け、長駝函
根に引んと決し、自動車と働かて是れ

穂原製

湖根に到る中、大なる峠あり、函根に達
す、三時を要すといふ、途中、浅間
神社を拜し、梨ヶ原の森林を行き、漸く
妙龍峠に到り、流窓の居る車中不始不
安と感ずる者、幸々を幸ひ、御所へ達し
てん、長尾峠を踏破す、此峠名のことと
長し、五時、杉根着、環の系櫃を投す、五時、
自動車乗りの初め、多分、夜方を
以て、一峠を越す、夜に就く、向子の杉根
に未だの初め也

十二日

和歌より先とて西の朝なるを殊々寒氣を免
ふ六時起床妻の旅行記を筆下紙に
後妻を付て湯本に敷束(念)中の崖
崩れ工事漸やく進むをみる。花の茶
屋の道を歩くと流合にゆく。山を
登つて小湯の橋を親見し志願して天
候寒き為めに己に十一時後寒の為め
杯を傾け二時迄合を易しく部屋に乘
合自動車を乗り来り二時五十分の汽車

榛原製

に投ず。車中、碓氷川の雄たけの交争
と上栗上州とを觀望す。四時四十分ゆき
不在中。今降道河加賀まで。関方中
若文社早稲田中。おと末出。出ぬ
と近刊二種配本

十三日

晴。春日季次。安藤勲。末宿。九時動
坂。高向方。出ぬ。部。幹部。合。と
く。不在中。丹。長。茂。今降道

海加賀三ヶ所に開す、午後女子大が古森
生正が可成り校舎新築其に呂校内物置舎
の召取して去る、関大より小室原徳義一徳
清(池田菊左衛門)(仙基)より来信、丹吳茂
丹来、其時病も未去廿六日故男爵十三
回忌、招き、今体麻痺振向可、南浦園
也、近來由ある、

十四日

晴朝未始程と著す、そのの眼種医難波

別平、古森流吉曰付来、其以洪園、吉井
雲峰、畫幅羽二を考ふ、昭々、安原勸東
功能流、家の先、と投符を為し、流して七五、
夫吹着三をも、熱のうるか、と雲丹を解り来
る、関口内閣、依親、辞の結果、大命、若槻氏
政、憲法、裁、下、若槻、の、後、を、承、け、て
前、の、現、裁、を、推、さ、る、一、二、大、臣、を、妻、父、あ、る、外
前、内、閣、の、般、振、ん、さ、る、一、午、後、散、策、来、三
時、集、談、全、館、を、利、う、文、的、場、合、の、例、合、り、こ
臨、在、南、米、ブ、ラ、ジ、ル、の、ア、マ、ゾ、ン、流、域、に、日、本

の一天地を扱ふんと實地探査し學上塚司より二時可く亘る講談あり、坂本三郎の訖別あり。

十五日

晴、高島沈吉舟泊、十時高島田とれ、城内古邊を回訪、伶伴、後の早稲田をうろつき、内儀、坂本三郎、花輪を贈る。又午後早稲田、文の巻を訪る、一二の巻を贈ふ、水田あり。

榎原製

十六日

晴、碓氷全集を讀む、溝口部、的未、橋、如人の為、紙冊、色紙十枚、葉摺、立見、午後坂本三郎の先、あ式、結ぶ。又早大回、古館、に於て、開會の司、古館、協会の理事、古館、に臨む、今後、初田、高島、三、清、かんて、取、玉、及、岩、戸、所、の、縄、屋、七、人、分、り、高、島、幸、一、酒、會、す、い、ん、の、近、軒、の、遺、子、の、誓、言、所、神、味、云、可、也、降、旗、元、大、中、病、篤、一、と、文、き、元、島、全、二、十四、時、也。

十七日

町、雜報を著す、坂上公亮可なり例の如
く注射を施す、勢あやむれり、政府次
官、任者につき羽二重地視として賜ふ。
十時早大回書館に列り回書館場合の評議
員を差遣する、正午大隈令館と令館し
午後議令をひらく、未令百四十四名決
算其死の議案を評決し、夜、今大隈
令館と懇親令といひ、松本表一と退散
名中、通海の次方の報告あり、今大隈

榎原義

海と日比谷回書館、日頭退職、朝七の
所感、演説あり、又、吹有、三海軍政務次官
多外務政務次官と、轉任し、今、つぎ、祝物
七賜ふ、水原、日頭、回書館、令館、朝人、と
未去、石塚、三、日、祝物

十八日

町、水原、日頭、回書館、令館、朝人、二書、交、況、日
投簡、祝物、も、著、す、今、回、書、館、場、合、の、評
議、員、の、三、日、目、目、目、も、出、席、中、水、原、山、本、三

二時高画書代十五圓拂込増中
未出山形物估取良次息良一
三有堂の松本進余の隨筆中
く必し中等教科書元入の件
既午後ち山大段卸に利り早
の社員会入臨必、茲に并決
現中と選奉す、畢つて日比
料理山六橋に出京中の重
館長と今合す、丹其原平
後宗淳の遠逝逝と報し未
孫田鏡

藤原製

送し未出

十九日

日

昨朝未だ宿を兼す、二
是原平、投筒、丹其字
酒を飲斤以し七旅係を
請ふ夕陽を利る、

二十日

昨、田之助、原平の
此を示す、能法家の
先の為の一書を

作す、旋杯を奉す、而るに要ハし来也、
午後北飯所致、寄す、き漫淡一書を
草中才、植市をと懺め下ふの施と修理す

二十一日

曠朝来、而るに要ハし教育、鉄砲
私言十枚致を御一郵送す、十一時、山
南橋に到り、田之邊、張巻の告別式に臨み、
後、預金三万圓引出す、新居に到り、室敷に料
を贈り、日本物と回り、一二物を贈り、物一

徳意表

起来、雨あり

二十二日

而、朝来、旋杯を奉す、廣島の山崎南兵衛、
物と贈り、来月、辰次、人々を、
海示を愛く、大毎、車日記、若山、
佛塔、長巻、舟と、
本林、海、
文行、堂と、
三十、田、入、金

二十三日

時、紫雲野の山中、古くある所の御寺に到り、
大に此の御寺を修む。村山御寺にも未だ且
相と修む事あり。先を待たせし日、事務の御寺に敷
果、淡心、酒飲し、山中、修後、以し、七月、刻
別、淡田和民の山若思、忠孝、善道、守を候
也。

二十四日

時、岡中、村山、秋浦、来、河、丹後、宗、厚、表、原

徳川

我、梅、元、出、この、き、秀、を、遺、族、の、部、次、守、能
候、を、兼、守、武、田、尾、主、不、明、元、義、来、流、
十二、時、三、十五、分、地震、あり、
三、時、頃、（一）先、を、待、た、せ、教、策、
野、球、屋、院、會、外、外、縁、の、遺、墨、屋、院、
今、を、え、し、悔、し、雨、降、り、出、づ、
候、也。

二十五日

時、五十、山、院、御、丹、中、田、菜、木、
を、送、り、来、

丹後祥流、帛状を先ず、午後一時四十分
浅草駅行を止し、歌人等々々と旅舎、二時為
汽車を鬼怒川、出発、泊り付、速足お
説と企つ、鬼怒川と汽車、時三時同と申
要す、初電を連通せしむ、一行高田井上(辰
徳井、星沢、吉田、村上、早川、山中、黒田と余
十人、荒木十畝病入り、冬旅せさせり、(此
城也、三時百通、此の地、多く椽木、杉、属
し、往年、今津道中、(2)て、以後、(3)電車
入り、時(4)の地、(5)此、在、武、電車

榎原製

一日先に通ず、下今市、まゝ二時半、
此駅より下車し、乗換へて更々、三十分を
要す、鬼怒川、湯あり、達す、此、湯、の、場、也
う、開け、け、る、も、川、に、臨、人、が、多、敷、り、也
彼、方、に、七、七、下、さ、る、未、テ、凡、日、は、東、武、電、車
今、此、の、建、て、し、る、も、う、も、金、谷、未、テ、凡、日、は、
吾、等、の、所、也、五、十、の、日、本、家、六、個、の、西、洋、
家、と、有、し、野、る、盛、大、の、と、も、と、す、前、に、川
あり、美、花、の、音、観、猿、橋、に、信、す、新、谷
の、趣、塩、原、に、似、る、も、の、あり、此、家、の、川

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

榛原製

